

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報

2009.9.5

No. 52

連絡先 042-555-1911



横田基地に核兵器は持ち込まれたか 核疑惑に迫る

過去の資料（東京平和委員会提供）から、“核”に関わる問題を、ピックアップしました。

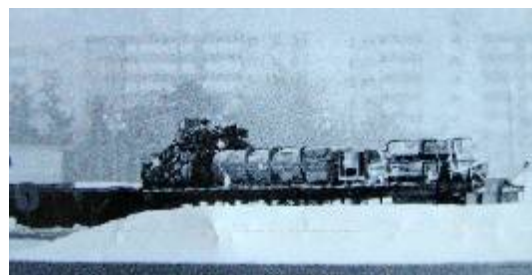
◇1980年4月10日、横田基地でブローケン・アロー（折れた矢）演習が行われた



この演習は、横田基地の C130 が核兵器を積んで飛行中に事故を起こし、核兵器が爆発にいたったという事態を想定して行われたものです。最初に白い煙があがり、火災の発生場所から次に核兵器に火がまわりもはや手おくれであることを示す黄色い煙、そして、核兵器が爆発したことを示す赤い煙が上がりました。この演習は、横田への核持ち込みを、米軍自身が物語っているのではないのでしょうか。

◇EWOシェルター（EMERGENCY WAR OPERATIONS SHELTER）

横田基地の司令部（第5空軍・在日米軍司令部）は、1973年から1974年にかけて、関東計画によって日本政府の予算でつくられた地上2階、地下3階の建物です。ところが、その地下が核攻撃を受けることを想定した核シェルターになっていることが、1984年2月、日本共産党の不破哲三委員長（当時）によって国会で暴露されました。これは、米軍のシェルターの中でも最大の重要度を持つ「EWO（緊急戦争作戦）シェルター」と言われるものです。しかもその任務は、核攻撃で横田が壊滅的な打撃を受けても、米軍が核戦争をすすめるために必要な最低限の要員を生き延びさせるためのものです。（写真のEWOシェルターの表示は、国会で追及された後はずされた。）



◇核魚雷「アスロック」コンテナが横田基地に

1983年4月、1984年2月、4月と東京平和委員会の横田基地監視行動班は何回も核非核両用ロケット魚雷「アスロック」のコンテナを弾薬庫近くで目撃しています。そのそばには危険度「1」の標識が。（アメリカ海軍では、W44核弾頭を、1961年から89年まで配備していました。）

◇弾薬庫には危険度ナンバー「1」が多数表示

深い壕（ほり）、高い土手の中に、半地下式の弾薬庫があります。29の小区画に分かれ、ひとつひとつに、火災が起こった際の危険度を示す標識がついています。1981年、朝日新聞が空中撮影を行ったとき、29室のうち、なんと17室に、いちばん高い危険度を示す「1」が。



写真：弾薬庫をガードする小高い土手が広がっている。弾薬庫には今、何があるのか。2009.8.22 撮影

横田基地への“核持ち込み”証言もあった！

(No. 52 の裏面)

「原爆を横田などへ運んだ」の赤旗記事があることが、国際問題研究者・新原昭治氏の「砂川闘争半世紀—米政府秘密文書が語る事件の内実」（「前衛」2009年7月号）で分かりました。

「1972年に静岡における3・1ビキニデー集会参加のため日本に来た、『ベトナム反戦米兵の会』のアル・ハバード軍曹は、1960年代はじめ核爆弾と核爆弾のコンポーネント（組み立て済みの核兵器構成部分）や、核物質を横田、三沢、嘉手納などの日本の米空軍基地にC 124 グローブマスター機で運び込んだと証言しました。ハバード軍曹には私自身がインタビューし、詳しい証言が『赤旗』で報じられました（1972年3月1日付一面）」。（前衛、新原論文より）

ハバード氏の証言（「赤旗」記事より抜粋）

1960年から63年にかけて、ワシントン州マッコード基地から日本（本土）や沖縄、フィリピン、そしてヨーロッパに向けて何百回もC 124 輸送機で飛んだが、そのうち2,30回は核兵器を積んできた。

核兵器を運ぶさいは、離陸の前に「核兵器担当将校」によるブリーフィング（行動命令の指示）が行われた。

（ふつう、命令伝達は、機長としての主パイロットが行う。）ブリーフィングの長さは、10分ないし20分程度であった。（長い中略。以下抜粋）

わたしは2回か3回、横田に「B 43」核爆弾を運んできた。ただ、乗員には、横田に運び込んだ核爆弾がひきつづきそこに貯蔵されたか、別の飛行機で他のどこかの基地に持っていかれるのかは、何もわからなかった。横田基地にも立川基地にも核兵器事故対策を含む災害対策計画がつけられていた。



「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の第6回すわり込みは

9月20日（日）午後1時30分から ぜひご参加を

4月19日に、下記の宣言をしてはじまった「すわり込み」（毎月第3日曜日、午後1時30分～3時30分）は、暑い夏も無事に行われ、9月には、第6回を迎えます。また「会」は、10月4日（日）は総会も予定しています。「会」では、多くの方々のご参加を呼びかけています。

私たちは、大量の破壊と殺人をもたらす戦争を憎みます。この地上から戦争とその火種をなくすために、世界中の国々が手をつなぐことを願っています。

だから、私たちは、戦争のための重要施設である軍事基地は、核兵器とともに、一刻も早く一掃すべきであると考えます。

ところが、ここ東京・三多摩の住宅地に居座る巨大な米軍基地「横田」は、「米軍再編の下、すでに先制攻撃「戦闘司令部」である米第13空軍第1分遣隊（ケニー司令部ジャパン）が配置され、さらに航空自衛隊の移転のための工事が巨費を投じて進められ、ミサイル防衛の最重要基地へと一層の強化がなされています。

私たちは、こうした危険な米軍再編を拒否し、航空自衛隊航空総隊司令部の横田基地への移転に反対します。

私たちは、戦争を憎み、憲法を守り、日本の自立をめざし、米軍基地に反対して立ち上がっている、全国の多くの方々と固く連帯します。

そして、横田基地撤去の実現をめざし、ここ西多摩はもとより、三多摩、そして、全都のみなさんと手を携え、ねばり強くたたかいぬいていきます。

【横田基地撤去の実現をめざす すわり込み行動宣言】より